環境教育ミーティング報告書　No. 68

MEET

Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト　平成25年（2013年）９月１日（日）

第６８回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立公民館と共催で、７月１８日（木）に開催し、講師の増田恵美子さんには「腐葉家族で生ごみ処理」と題して話していただきました。

「腐葉家族」は、地元産の腐葉土を使用して好気性細菌の働きで生ごみを堆肥化・減量する、地産地消の生ごみ処理システムです。費用がかからず、庭や畑が無くても省スペースで簡単に生ごみ処理ができて臭いも気にならないとのこと。

でも時には虫が湧く事もありますが、大丈夫！虫発生はトラブルではなく、生ごみの分解を手伝ってくれる強い味方と考えられています。

自分の出した生ごみと向き合う事は、食生活を見直し、身の回りの自然を見直すきっかけにもなります。

環境を見つめる窓とも言える「腐葉家族」を家族の一員として迎え入れ、楽しく生ごみ減量を始めてみませんか！？と訴えられました。

参加者の感想

1

生ごみは家庭から出るごみの中でも重量比で最も多く、水分も多く含んでいるため、個々が減らすという意識を持つことが、ごみ減量と循環型社会の構築に向けての大きな一歩となります。

長岡京市でもエコ農園など生ごみ減量の取り組みを行ってはいますが、生ごみの分別収集となると処理施設の問題や収集体制に課題が多いのが現状です。

そんな中で、増田さんの「腐葉家族」の取り組みは、生ごみの減量に大貢献しています。さらに、「自分の出した生ごみと向き合う事は、食生活を見直し、身の回りの自然を見直すきっかけにもなります。」には、目からウロコでした。

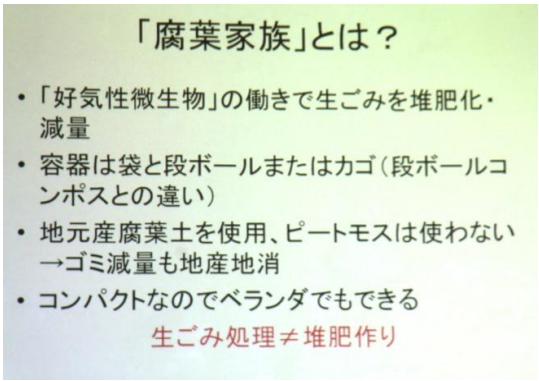
今後益々のご活躍を期待し、「腐葉家族」に「いいね！」

2

もっと大規模な装置かと思っていましたが、意外と簡単に作れるも

今日紹介されました「腐葉家族」による生ごみ処理方法は、
①いやな腐敗臭がしないため、マンションのベランダでも利用できる
②生ごみが分解するので廃棄物が少なく、畑に埋める等後処理がいらない。
③水分が含まれている生ごみや魚の骨など生ごみを選別せずに処理できる。
などの特徴があり、マンション住む私にとって大変有効で便利な方法です。これからもどんどん利用したいと思っています。

今回は温暖化防止活動推進センターの広報により、向日市民の方も聞きに来られ、環境の都づくり会議メンバーとの交流も行われました。
たいへん有意義なミーティングになりました。



のでよかったです。そして、その簡単な装置でありながら、特に夏には驚異的な速度で生ごみ処理ができるのをさんまの骨の画像で見られたのが大変印象深かったです。
これからわが家でできるかは、主人と交渉中です。虫がいやだと言っておりますので、腐葉家族のブログを見せたりしてなんとか説得できればと考えております。
まだ長岡京市には主人の親戚以外知り合いがいないため、地球温暖化防止活動推進員として まだほとんど何もできていない状態です。これを機会に、地域で活動できればと思っております。

3

いつもながら、増田さんは豊富な研究と知識、経験の裏付けのあるデータを使って報告されました。
また、ユーモアとウィットのある話し方で、大変楽しく聞かせていただきました。

4

以前このミーティングで取り上げられた「ソルビオ」との出会いが大きなきっかけになったと伺い、嬉しく思いました。
「腐葉家族」は最初「扶養家族」の間違いか？と思いましたが、お話を聞いて納得しました。家の近くにある落葉で生ごみ処理システムが出来るのは、素晴らしいゴミの「地産地消」だと思いました。「生ごみ処理≠堆肥化」の展開は非常に現実的だと思います。しかし生ごみ堆肥化の「腐朽活動」されている。

アメリカミズアブを家族のように親しみを込めて話されるのに、感心から尊敬へと変わりました。生活の中で「彼ら彼女ら」と関わりながら、生態を研究されてる。都市に居ながらお子様たちへの環境教育になっていると羨ましく思いました。

今後、例えば、竹の落葉と広葉樹の落葉とでは、どの程度、微生物や菌の発生、発酵が違うか、数値などによる比較が出来れば更に素晴らしい活動になるのではないかと思いました。